ロボットの実行パターン

1. スケジューラを通して定期的に実行する方法

   バッチ　リアルタイム

   - 付属のソフトウェア（Management Console）を使用

2. Kappletを通してユーザ個別に実行する方法

   バッチ　リアルタイム

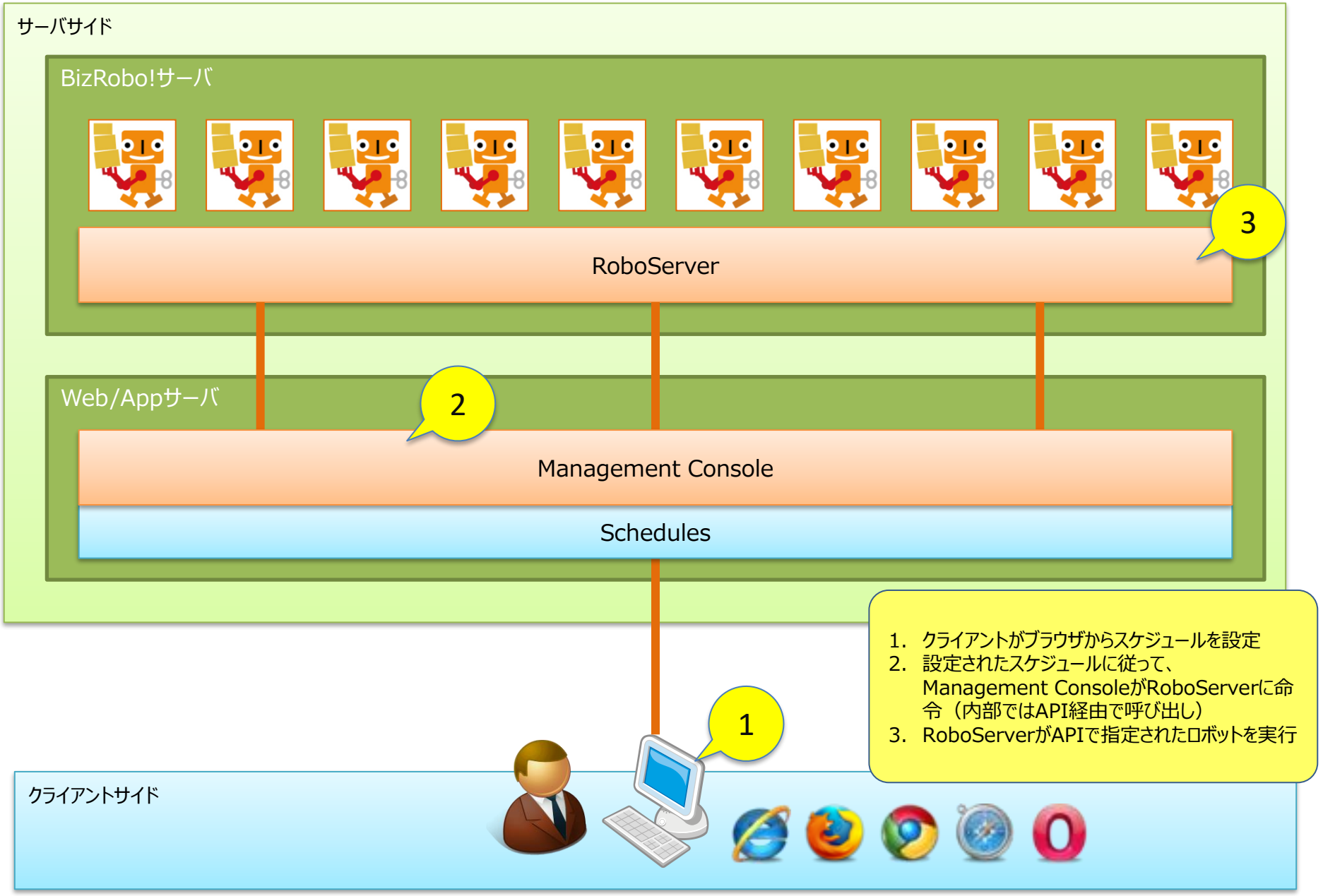
   - 付属のソフトウェア（Kapplet）を使用

3. 他のシステムをI/Fとしてユーザードリブンで実行する方法

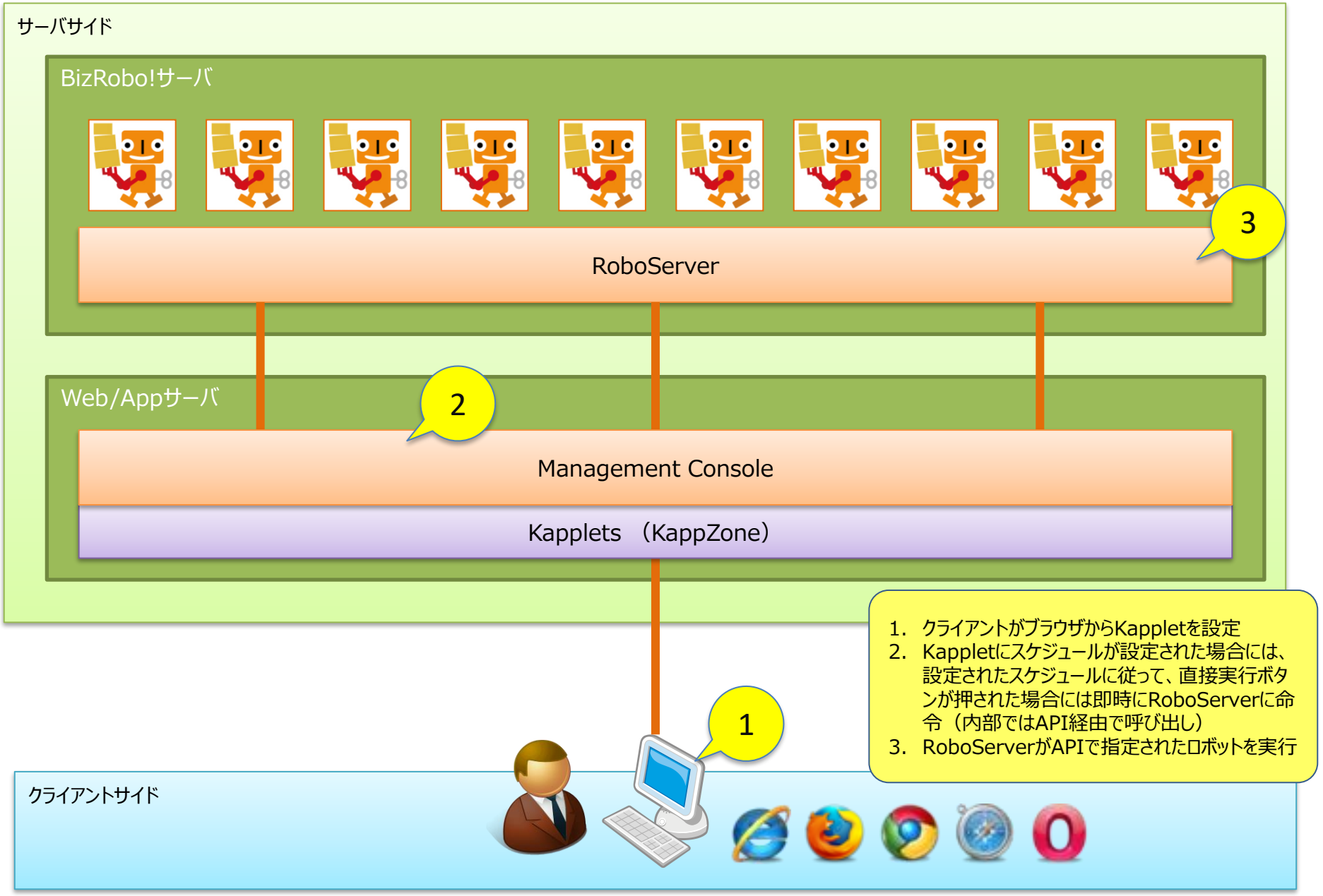
   バッチ　リアルタイム

   - I/Fとなる画面部分をJavaもしくはC#で作成する必要あり
   - Ver8.3以降はRESTコール（Web API）で実行することも可

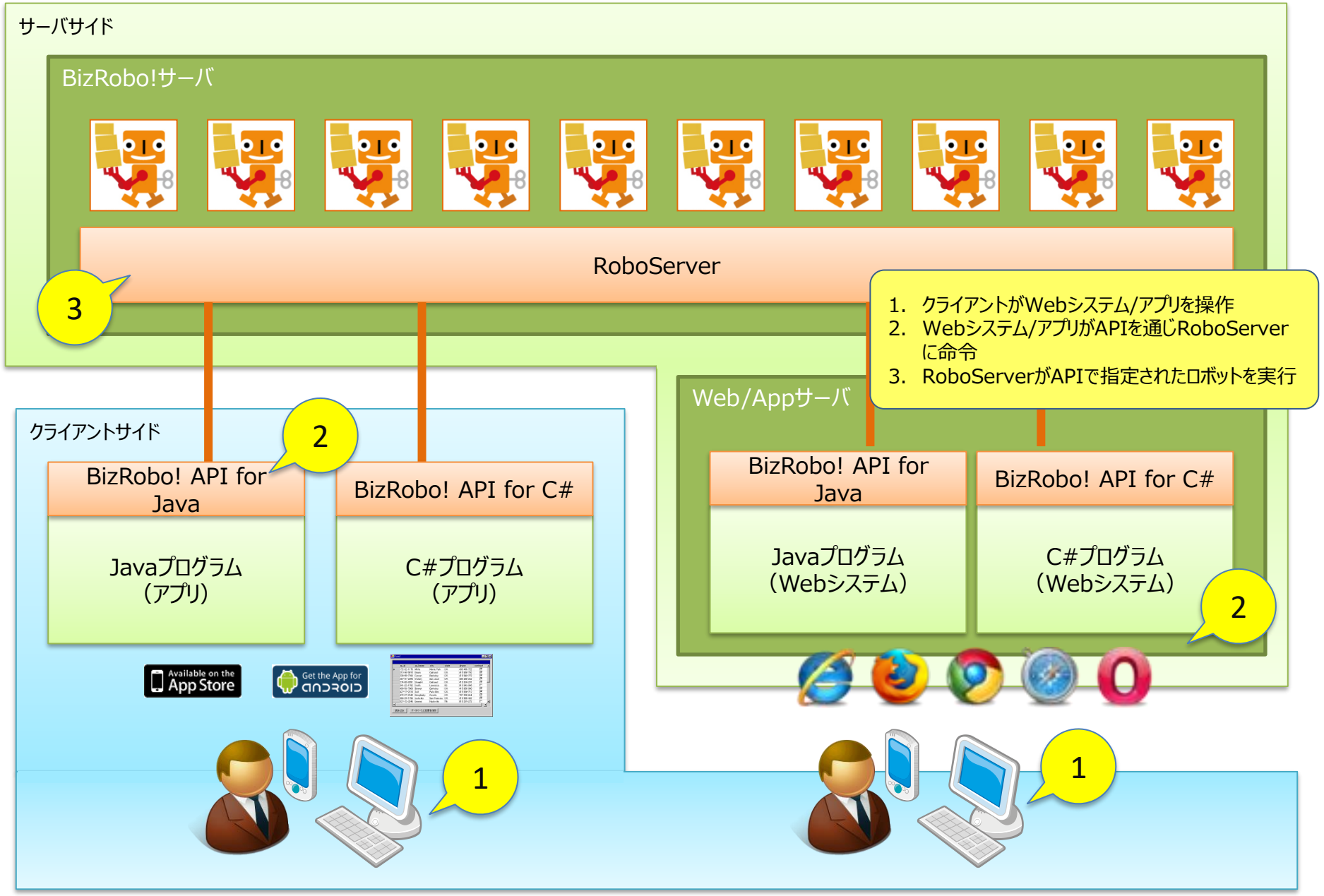
1. スケジューラからロボットを実行する仕組み（全体像）



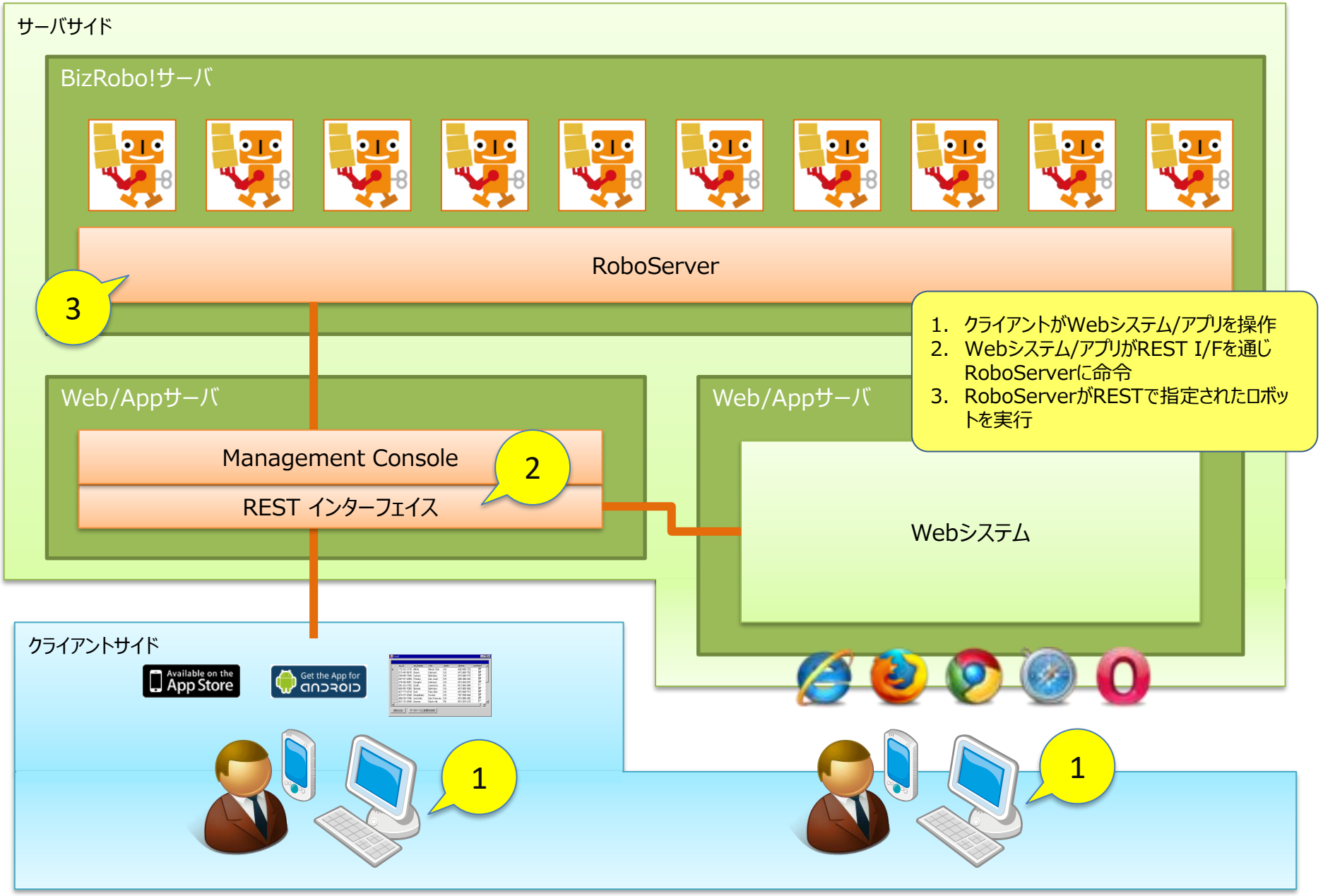
2. Kappletからロボットを実行する仕組み（全体像）



3. 他のシステムからロボットを実行する仕組み（全体像：API編）



3. 他のシステムからロボットを実行する仕組み（全体像：REST編）



例

API経由で他のシステムからロボットを実行する場合の具体的なロボット実行イメージ（Webシステム想定）

担当者様が
Excel加工

担当者様が
Excel登録

担当者様が
ロボット実行

担当者様が
結果を確認

※ 本イメージではシステムへのインプットの1つとしてExcel ファイルを想定しておりますが、
必ずしもExcel がロボット起動に必要なわけではありません。

ファイルがアップロードされます

Webシステム
登録

ロボット稼働

パラメータ"abc"をロボットに
渡すことも可
（InputObject）

Webシステム
abc
ロボ実行

API

ロボットによる
自動化処理

Webシステム
処理結果：ccc

API

ロボットによる
自動化処理

APIを呼び出すコードはコーディングしていただきます。

戻り値として"ccc"をロボットに渡すことも可
（OutputObject）

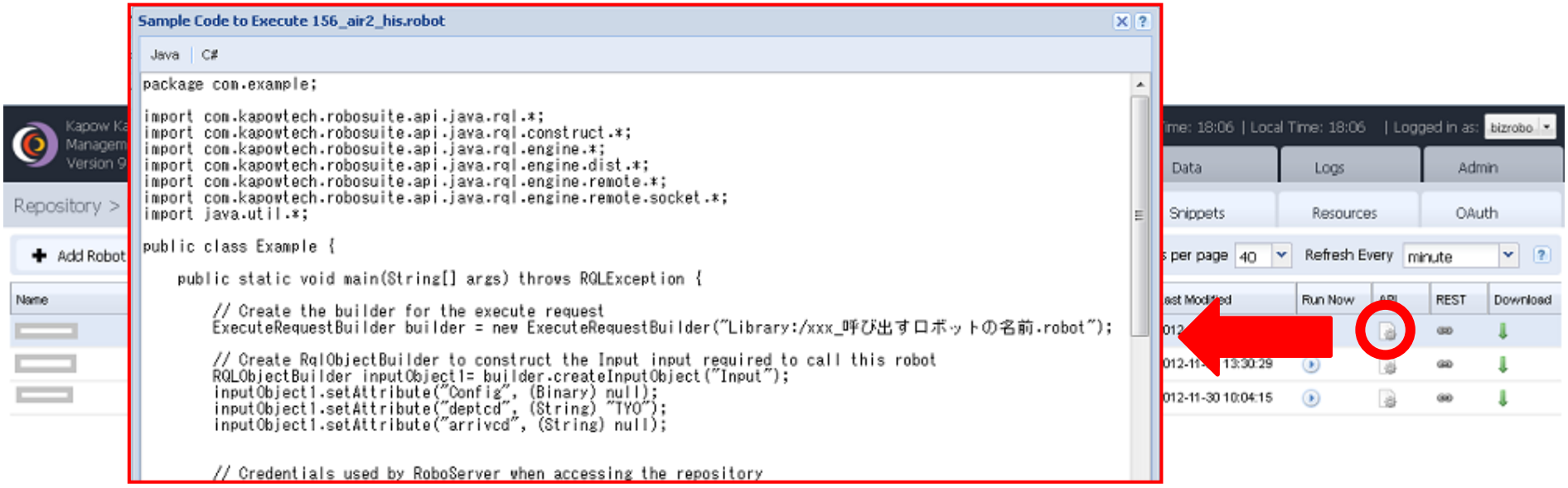
スクラッチ開発部分　BizRobo!利用部分

APIの使い方

APIにはJava用、C#用の2種類があり、どちらもAPIとして提供されているコードをプログラム中に組み込むことで、ロボットとの通信が可能になります。

使用方法については、ご利用頂いているバージョンのDeveloper's Guide(開発者ガイド)をご確認ください。

また、Management Consoleの以下の画面よりサンプルコードを取得することができます。



RESTの使い方

REST インターフェイスを利用してWebサービスとしてロボットを実行することが可能です。

使用方法については、ご利用頂いているバージョンのUser's Guide(ユーザガイド)もしくはHelp(ヘルプ)サイトにて、REST項目の内容をご確認ください。

Management Consoleの以下の画面よりサンプルコードを取得することができます。

ロボットに渡すパラメータ、および戻り値の形式をXMLまたはJSONで指定することができます。